山田氏は、「子どもたちは、自分たちで判断し、自分のいのちを守った。褒めてあげたい。教育の力を感じた。」と話す一方、「１０００人もの方々が亡くなってしまったので〝奇跡〟と言われるのにときどき違和感を覚える。地域に防災教育が行き届く時間がほしかった。」と悔しさをにじませていました。

また、今回の経験をもとに防災三原則をご紹介いただきました。

『想定にとらわれるな』

『率先して避難せよ』

『最善を尽くせ』

自分のいのちは自分で守ろうと子どもたちにも理解できるように分かりやすく説いた言葉です。

最後に、「人を死なせてはいけない。いのちがあれば、どんなことでも乗り越えていける。震災を忘れないでください。次世代の子どもたちのいのちを守るために震災の教訓を伝承してください。」とメッセージをいただきました。

いのちを守る防災三原則

『想定にとらわれるな』

ハザードマップ（災害予測図）やハード（防潮堤、建物）を信じるなということです。今回、釜石の奇跡では、ハザードマップでは津波が来ないとされる場所が浸水し、子どもたちは、自主的にさらに高台へ避難し、津波から免れました。

『率先して避難せよ』

三陸海岸地域には、『津波てんでんこ』という津波防災伝承の言葉があります。「津波が来たら、肉親構わず、各自てんでばらばらに一人で高台へ逃げろ」がこの伝承の本来の意味。逃げるということは、簡単のようで難しいことです。地震が発生したら、家族を信用し、とにかく高台へにげることが重要です。

『最善を尽くせ』

釜石市の児童たちは、当初市が指定していた避難所に避難しましたが、中学生らがさらに高台へ避難するのを見て、自主的に合流して避難を始めたそうです。そして、無事全員が移動し終えた後、最初にいた避難所は津波にさらわれることとなりました。